

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技 【結果速報】

試合 M19 3位決定戦

【2025/8/20】

金沢市立工業	10	2 2 3 3 — — — — 0 4 5 4	13	西京
PSO				

審判1 新井睦士

審判2 坂井奎太

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	三谷 英輝	25	9	47%
GK13	田村 琉真	4	4	0%

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	清角 圭介	37	10	50%
GK13	堤 珀來	0	0	

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	三谷 英輝			
2	松野 綾祐	11	2	
3	北谷 翔太			
4	角尾 琉斗	5	1	
5	中村 橙滋	5	1	
6	水浦 楽久	6	2	
7	前田 洸成	2	1	
8	前田 侑大	8	3	
9	徳田 慎之介			1
10	亀口 希空			2
11	小西 由笑			1
12	前田 蒼空			
GK13	田村 琉真			

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	清角 圭介			
2	荒川 蒼空	3	1	
3	井上 大誠	2	1	
4	長野 留己	2		1
5	濱川 愛斗	13	6	
6	坂東 汰一	2		1
7	長尾 大樹	3	3	1
8	堀 海童			
9	毛利山 幹太	1	1	1
10	三宅 天太郎	3	1	3
11	大槻 瑛			
12	高氏 悠吾			
GK13	堤 珀來			

R7 インハイ水球 Web サイト

<https://j-waterpolo.net/25Yamaguchi/index.html>



水泳・水球

No. 1

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月20日（水）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

19

帽子の色 白

帽子の色 青

金沢市立工業

10

2	-	0
2	-	4
3	-	5
3	-	4
PSO		

西京

13

審判1： 新井 睦士

審判2： 坂井 奎太

戦評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は8月20日、山口きらら博記念公園水泳プールにて最終日を迎えた。この日の注目は、金沢市立工業高校（白帽）と西京高校（青帽）による3位決定戦であった。ともに準決勝で惜敗を喫したものの、その戦いぶりは観客に深い印象を与えており、最後の試合に懸ける想いは格別なものがあつた。

試合は第1ピリオド、金沢市立工業が持ち前の攻撃力を発揮する。②松野がスピードあるカウンターから先制点を奪うと、続いて⑦前田洸が左サイドから冷静にシュートを決め、立ち上がり制した。西京もシュートを放つが、金沢工の堅い守備とGK①三谷の落ち着いた対応に阻まれ、無得点に終わる。序盤は金沢工が2-0とリードし、試合を優位に進めた。

しかし第2ピリオドに入ると流れが大きく変わる。西京は⑤濱川が圧倒的な存在感を見せ、ミドルシュート、ドライブからの力強いシュート、さらにはカウンターでも得点を重ね、立て続けにゴールを奪取。さらに⑦長尾の冷静な退水誘発から⑩三宅が決め、試合を振り出しに戻す。金沢工も⑧前田侑の強引な突破からシュートを沈め、⑤中村がペナルティーを確実に決めるなど食い下がったが、このピリオドは西京が4得点を挙げて反撃。前半終了時には4-4のピリオドスコアとなり、緊迫感が漂った。

続く第3ピリオド、試合はさらに熱を帯びる。金沢工は⑧前田侑がゴール前でボールを押し込み、④角尾や②松野も得点を決めて意地を見せる。だが、西京の攻撃はそれを上回った。⑤濱川がペナルティーから豪快なシュートを叩き込み、さらに退水セットでも確実な得点。②荒川や⑦長尾も続き、流れるような連携からゴールを奪った。西京はこのピリオドで5得点と爆発し、試合の主導権を握ることに成功。金沢工も必死に追いついたが、この時点でスコアは7-9と西京が逆転に成功した。

迎えた最終第4ピリオド。両校の意地が激しくぶつかり合う時間帯となった。金沢工は⑧前田侑が当たり負けせずにシュートを沈め、⑥水浦が渾身のミドルシュートを2本叩き込むなど、最後まで勝負を諦めなかった。一方、西京は⑦長尾がカウンターから得点、⑤濱川が高打点のフリースローを叩き込み、③井上や⑨毛利山もそれぞれ持ち味を生かして加点。試合終了間際まで互いに一歩も譲らない攻防が続き、観客席は大きな拍手と声援に包まれた。

最終スコアは10-13で西京高校が勝利。見事に3位の座を掴んだ。しかし、この試合で称賛を受けるべきは両チームの選手全員である。勝者となった西京は、⑤濱川を中心に攻撃の軸を築き、仲間との連携で得点を積み重ねた。ディフェンス面でも最後まで集中力を切らず、チーム全体で掴んだ勝利であった。一方、惜しくも敗れた金沢工も、②松野や⑧前田侑、⑥水浦らが要所で得点を奪い、何度も試合を盛り返した。特に立ち上がりの勢いと最後までゴールを狙い続ける姿勢は、敗者という言葉で片づけられない価値あるものだった。

3位決定戦にふさわしい試合内容は、観る者に「水球の面白さ」と「高校生の可能性」を改めて感じさせてくれた。最後までボールを追いつける姿、仲間の得点に喜び合う姿、そして悔しさを噛みしめる姿。そのすべてが青春の一場面として、観客の心に深く刻まれたに違いない。

西京高校の3位入賞はもちろん誇るべき成果だが、金沢市立工業高校の戦いもまた堂々たるものであつた。互いの健闘は、この大会の歴史に力強く刻まれるだろう。

記録者

伊藤・加藤・菅原